平成１９年度宮崎県支部総会開催報告

獣医部会　西元　俊文
（昭和５５年卒業）

昨年、鳥インフルエンザの発生で支部総会の開催延期を余儀なくされたことを思い出し、今年こそは無事であって欲しいと願いながら１月２６日を迎えました。大学からは有嶋和義獣医学部長においでいただき、定刻の５時３０分、総勢２２名の会員参加のもと、宮崎市において盛大に開催されました。

初めに長友士郎会長によるあいさつ。大学での代議員会における予算、決算の状況報告や九州連絡協議会での協議事項の内容説明のほか、ＡＯ方式（入学試験における自己推薦システム）が始まった当時、本県の受験者をあざみ会が十分把握しきれていなかったこともあり、全く合格させることが出来なかったこと、その後、会長命により会員の受験生指導や情報提供で合格率向上を目指す「宮崎方式ＡＯ対策」を実施していることなど話されました。次に、昨年１２月２０日に逝去された久保光吉先輩（昭和２２年卒）に対して哀悼の意を込め黙祷。続いて、有嶋先生から大学の近況報告を交えた大変意義深いごあいさつをいただきました。

先生は、飛行機よりもゆっくりと景色を眺めながらの移動がお好みとの事で、今回も電車を乗り継ぎ、遠路１２時間をかけ宮崎までおいでいただいたところです。

ごあいさつでは、今や全国に轟く麻布大学の紹介もさることながら、今となっては大学内でわずか３つしか残っていないという県人会にも先生自ら出席され、学生たちとの交流を重ねておられるお話を伺い、特に子息が在学中の会員たちは手を合わせて拝みたい気分だったことと思います。

その後、黒木延幸副会長の乾杯で懇親会に突入、例によって、今だからこそ許せる「ここだけの話」を交えた自己紹介。中には、今年２５歳になる娘の結婚相手をお願いする会員もおりました（ちなみにこの会員は去年も頼んでおりましたが、娘は未だに独身との事）。宴もたけなわとなった頃、いつものことではありますが、お店のお姉さまから「もう閉店ですよ」の声。不満の意を示しながらも、皆で円陣を組み恒例の麻布大学校歌を大合唱した後解散しましたが、有嶋先生の気さくな人柄に感動して、会長をはじめほとんどの会員が宮崎の繁華街「ニシタチ」で再び集結。「宮崎まで仕事をかかえて来ている」と言う有嶋先生を半ば拉致するかのようにお誘いして、深夜まで楽しく飲み明かしました。